「　祭り太鼓は感謝の響き　」　（協同組合通信/金曜論弾）　16.11.26

先日、某社長の就任披露宴があった。腹に響き渡る幕開けの太鼓の競演に、会場の空気は一瞬で静まり返る。ずしりと響く野太い音から一転して、リズミカルな調子の良い、郷愁を誘い、気分を沸き立たせる音の冴え。

古来、太鼓は多くの催事に登場し、戦場では士気を鼓舞する不思議な響きを轟かせた。戦争の先端を開く銅鑼、突撃を促す乱打、退却を示す一打など、集団の群集心理の操作に巧妙に利用された。例外なく、世界中の戦術にとり入れられてきた歴史がある。

列島では秋の深まりと共に、各地で祭りが多くなる。春に始まった農作物の豊作を祝い、先祖を敬い、家族や子孫の繁栄を祝う。今や少なくなったとはいえ、鎮守の森の境内から流れくる祭りばやし。そこには、笛と太鼓がなくてはならない道具。太鼓は人々の気分を高揚させ、笛は人々の踊りを誘う。

大相撲秋場所のテレビ桟敷で久し振りに気合が入った。日本人力士（最近は、わざわざ断りがいる程に、外国勢に押し捲られている）の魁皇が、その力量と存在を示す。この大関は、良く言えば九州人のおおらかさ。辛くいえば、大雑把な取組みだが憎めない性格。乗っている場所は天下無双だが、負けが込むと、早々に勝負をあきらめる。秋場所は、テンテケテン、テンテケテン。触れの櫓太鼓の響きに耳を傾け、新弟子の頃の初心を思い出したらしい。

今年は台風禍が続いているが、怒涛の蒙古軍の襲来、猛攻を凌ぎ追い返した文永と弘安の 2 度の役は、鎌倉幕府にラッキーな台風の力、神風のなせる技のご加護があった。台風による暴風の音と未体験の豪雨は、蒙古・高麗軍の戦闘意欲を喪失させ、動転した将軍の、戦陣を解く必死の退却の合図の大乱打も、荒れ狂う野分にかき消された。

異常な高温や台風の猛攻にも耐え、今年の米の作況指数は平年並。太鼓の響きや音は、1 年間の野良仕事の疲れを癒し、感謝の気持ちがこもっている。景気に敏感な世情を如実に反映する秋祭りに酔うのも良い。どうか、平和の粛々たる大太鼓の音が、澄みきった秋に響き渡る収穫祭であって欲しい。

（　気象情報システム株式会社　高　津　敏　）